



走快

第26回はぐるま

マラソン大会

i n 多摩川

2月22日 桃の花が咲く多摩川のサイクリングコース

あたたかな日和に恵まれ、はぐるま恒例マラソン大会が実施されました

今年の目標は「自分の目標にベストをつくそう」で、個々様々

- 10キロ45分切る
- Aさんについていき、止まらず走る
- ひざを痛めない走り方をして完走する
- かつこいいウオーキングで歩きとおす
- なかまをあげましながら完走する
- 昨年のタイムを上回る
- 50人..50通りの目標に向かって5キロ・8キロ・10キロを全員が完走しました。



はぐるま

No.107

2019年4月5日

社会福祉法人
はぐるまの会

広報委員会

川崎市多摩区
菅馬場1-18-17

TEL 044-946-1308

マラソン大会を終えて

マラソン実行委員

菅工舎職員 古田 詩子

今年も仲間たちが毎月クリーンアップ清掃活動に参加をしているNPO法人多摩川エコミュージアムの全面協力のもと、「せせらぎ館」からのスタート! ゴールでの仲間たちの表情は、走り切った充実感と爽快感に満ちていました。ゴール後のお楽しみ、トン汁とおにぎりを食べる姿もすがすがしく映りました。今年の表彰は、クラス賞を設け、10キロ40歳以上・40歳以下、8キロ・5キロに分け、タイムの早かった1位〜3位に金・銀・銅のメダルを授与しました。最も早かった男性は【マラソンキング】女性に【マラソンクイーン】の称号が与

えられるということ、仲間自治会実行委員との話し合いで決めました。本番では、練習から取り組んできた「目標に向かってベストをつくす」が達成され、新記録の仲間は昨年の倍にもなりました。

表彰式は大変盛り上がり、受賞を逃し感情をあらわに悔しがる仲間や、受賞した仲間も表彰台で一礼し雰囲気盛り上げました。今回のマラソン大会で最も心に残っているのは、「仲間自治会会長」の長原さんが、仲間全員に手づくりのメダルを作り、景品のジャンパーに付けたことです。自分の目標に向かってベストを尽くした、全員にメダルを渡した長原さんの気持ちに深く感銘を受けました。仲間同士で高め合い、競い合うことも素晴らしいことです。しかし仲間一人ひとりが、メダル以上に頑張ったことを、決して忘れてはいけなと教えてくれている様でした。

日々仲間から教えてもらい、勉強させてもらっています。

今回の大会もたくさんの方の協力があり、無事に終わることができました。

ありがとうございました。



素晴らしい笑顔に乾杯！
入所1年目 10キロの部

走り切った者だけが感じる爽快感と満足感にあふれた笑顔です。
高齢化を迎え「マラソン」も様変わりしていますが、健康な体で活動できた、一つの物差しにもなっています。

50歳過ぎたがまだまだ5キロは走れた。車いすでも参加できた。手を振って歩くと疲れるけど、最後まで歩きとおせた。まだ頑張れる。



トン汁・・・前日の仕込みから、食事部会のホーム職員さんが作ります。ゴール後の楽しみ！仲間の笑顔が見たくて頑張ります。極旨・・・



【マラソンクイーン】【マラソンキング】
表彰式 恥ずかしいけど・誇らしい！

ご卒業おめでとう！！
ようこそはぐるま工房へ

木村 拓人さん

三寒四温の時を迎えた陽気のよい日に、とある支援学校からお声がけをいただき、卒業式に参列しました。

門出を迎える日の緊張感をほぐすような温かい日差しの中、ご家族、教員の方々の嬉しいような、ほっとしたような式前の表情がとても印象的でした。式が始まるとその表情は一変します。厳かな雰囲気の中、教員を先頭に歩く生徒たちの顔は一様に真剣です。

一人ひとり手渡される卒業証書。一人ひとりに送られる大きな拍手。丁寧な一礼ののちに降壇する生徒たち。粛々と式が進む中、来賓席の前列に座っていた前校長先生の肩ははっきりと震えていました。

校長先生からの最後の言葉「みなさん、学校は終わりです。社会へたくましく羽ばたいてください。」その言葉の想いを受けて、彼らは社会へ歩き出します。

今年、はぐるまの会は1名の卒業生を迎えます。式後、関係者への挨拶の時、校長先生は涙を止めることができませんでした。

その姿、「あとは、頼みますよ、みなさん」と言っているように思えました。

(はぐるま工房責任者 新井多佳夫)

女川からのお手紙

きらら女川は東日本大震災後、交流し訪問した作業所です。主力製品の「おからかりんとう」を仕入れて、小さなお店・第2作業所のお店・バザー等で販売をしています。

注文した、おからかりんとうの箱に、短いお手紙が添えてありました。わかめを仕入れている南三陸・十三浜の青山さん同様、商品を通しての交流は続いています。もう8年が経ちますが、私たちは商品を通していつまでも忘れられない存在となっています。

いつもご協力ありがとうございます。
今日で震災から8年と経りました。
より一層皆で協力して
頑張っていきたいと思っております。
これからよろしくお願ひ
致します。



きらら女川 

新しい時代に一言

実際に携わっている人が先を見据えて、他者（仲間）のことを考えて、変える勇気を
持てば、新たな創造に繋がるが、そうでなければ終焉を迎える危険が高い！

最近刺さった言葉

「変わってはいけない事・変わらなければならぬ事」を常に意識してきたここ数年。福祉制度の変化に一生懸命ついてきました。疲労感はついて回りました。

先の言葉にあるように「変える勇気を持つてば、新たな創造に繋がる」ことを信じよりよい選択と、はぐるまの歴史と伝統を常に変化させていく力をつけていく事を目指す新時代に向かおうとしています。

法人設立の壁であった資金一億円が、一千万円に引き下がり、小規模の法人が認められると、即小規模社会福祉法人格を取ります。この時は、法人になったことで安定期を迎える安ど感がありました。

一千万円の資金500万円は、はぐるまの貯金。半分の500万円は、親の会の皆さんが、会費として長年ためてきた貯金を使いました。運営資金が乏しい中でしたが、職員は経費を切り詰め、ご家族は生活費の一部をはぐるまの為に毎月貯金をしていました。その心血を注いだ資金で、法人の一步を踏み出し今年で17年目。昭和・平成・そして新時代

はぐるまは、昭和58年に生まれ、無認可の時代20年かけて育ちました。この仲間たちがグングン成長していく、まさに成長期で勢いがあつたと思われまます。平成に変わり20年目に「措置から契約へ」の「支援費制度」になり

令和

を迎えます。

新入職員のご紹介！



4月からはぐるまの会に入職いたしました。佐々木紫乃と申します。これから仲間たちと一緒に楽しんでたくさんの事を学んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

これから激動期・成熟期に向かうだろう新時代は、**若者はハツラツと活動的に高年齢者は生きていく価値を益々高めやっぱ** **リハツラツと人生をおくる**ことができる社会を目指します。私たちは仲間と一緒に実現に向かって努力していきます。いつもと変わらない・いつもどおりの4月ではありますが、年号が変わる事で、新たな気持ちが変わってくるものです。